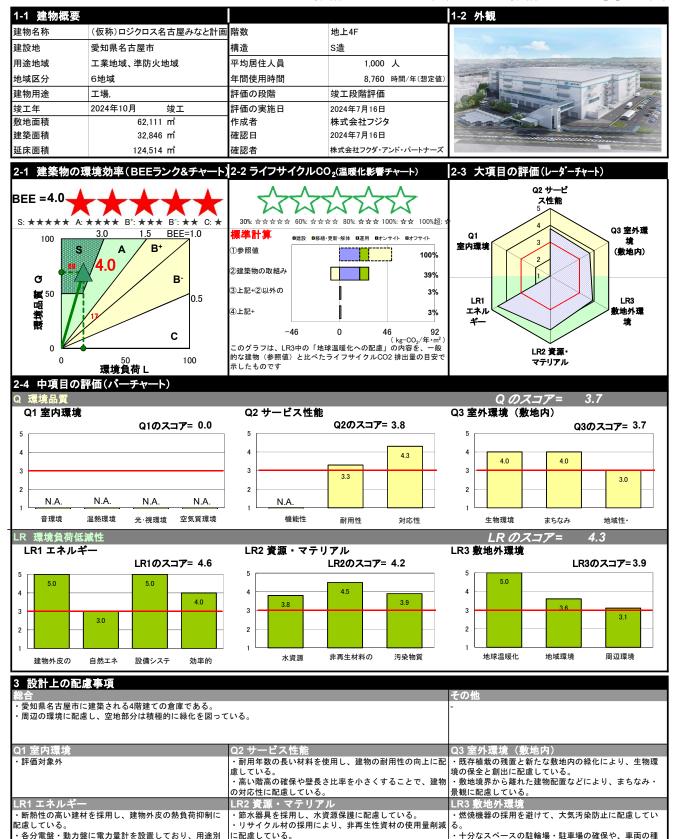
CBL-CAS建築-0055-24 結果(SDGs評価なし)

■使用評価マニュアル: CASBEE-強策(新築)2021年SDGs対応版|使用評価ソフト: CASBEE-BD NC 2021SDGs(v1.2)

類別に出入口を分けることなどにより、交通負荷抑制に



- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- d: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LF: Load Reduction (建築物の環境負荷(底減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■「フィブリュブルCO2」ことは、建業物の命格主性、建設から連用、改修、除体廃業に至る一生の同の一般化炭素排出量で、建業物の寿命平数と味じた
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

エネルギー消費量を把握し効率的な運用が可能となって

CBL-CAS建築-0055-24 スコア

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価マニュア CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

R は 項目 R は で		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数 - - - - - - - - - - - - - - - - - -	P価点	重み 係数 - - - - - - - - - - - - - - - - - -	全体 3.7
Q 建築物の Q1 室内環境 1.1 室内 1.2 遮 1 2 温熱環境 2.1 室別 2.3 空間 3.1 屋別 3.1 屋別 3.3 照月 4 空気質環境 4.1 発生 4.2 換象 4.3 運用 4.3 運用 4.3 運用 4.1 機能性 1.1 機能性	内騒音レベル 音	環境配慮設計の概要記入欄	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	3.7
Q1 室内環境 1.1 室内環境 1.2 遮 1.3 吸 2 温熱環境 2.3 空 2.3 空 3.4 照 4 空気質環 4.1 発 4.2 換 4.3 運 4.3 運 1.1 機 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 2.2 3.3 4.1 2.3 3.3 4.1 <th> 内騒音レベル 音</th> <th></th> <th></th> <th>-</th> <th>-</th> <th>-</th> <th>-</th>	内騒音レベル 音			-	-	-	-
1 音環境 1.1 室内 1.2 遮音 1.2 遮音 1.3 吸音 2 温熱環境 2.3 空音 3 光・視環域 3.1 屋 3.3 照月 3.4 照明 4.1 発き 4.2 換き 4.2 換き 4.3 運用 1.1 機能性 1.1	内騒音レベル 音			-	-	-	-
1.1 室 1.2 遮 1 2 2 3 3 4 3 4 照明 4 2 換 5 4 3 運 4 4 3 運 1 2 2 3 3 4 3 4 照明 4 4 2 換 5 4 5 4 5 4 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本				-		-
1.2 遮音 1 2 2 3 3 4 3 4 照明 4 2 数 3 4 照明 4 2 数 3 4 3 1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本				-		-
1.3 吸音 2.1 室が 2.1 室が 2.1 室が 2.3 空部 3.1 昼か 3.3 照月 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換身 4.3 運月 4.3 運月 4.1 機能性 1.1 機能性	1 開口部遮音性能 2 界壁遮音性能 3 界床遮音性能(軽量衝撃源) 4 界床遮音性能(重量衝撃源) 音 に温制御 1 室温 2 外皮性能 3 ゾーン別制御性 度制御 調方式 境 光利用 1 屋光率 7 方位別開口 3 屋光利用設備 レア対策 1 屋光制御		- - - - - - - - - - - - - -		-	-	-
1.3 吸音 2 温熱環境 2.1 室深 2.2 湿度 2.3 空語 3.1 昼空 3.3 無限 3.4 照明 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換数 4.3 運用 4.3 運用 4.3 運用 4.1 機能性 1.1 機能性	2 界壁遮音性能 3 界床遮音性能(軽量衝撃源) 4 界床遮音性能(重量衝撃源) 音				-	-	-
1.3 吸音 2.1 室流 2.1 室流 2.2 湿原 2.3 空語 3.1 屋う 3.1 屋う 3.3 照月 3.4 照明 4.1 発き 4.2 換き 4.2 換き 4.3 運月 4.3 運月 4.1 機能性 1.1 機能性	3 界床遮音性能(軽量衝撃源) 4 界床遮音性能(重量衝撃源) 音				-	-	-
1.3 吸音 2 温熱環境 2.1 室流 2.2 湿原 3 光・視環域 3.1 屋う 3.3 照原 3.4 照明 4 空気質環 4.1 発生 4.2 換き 4.3 運用	4 界床遮音性能(重量衝撃源) 音			-	-	-	-
2 温熱環境 2.1 室/ 2.2 湿度 3 空間 3.1 屋/ 3.3 照月 3.4 照明 4 空気質環/ 4.1 発生 4.2 換き 4.3 運月 4.3 運月 4.1 発生 4.2 換き 1.1 機能性	注			-	-		-
2.1 室 1 2 3 3 2 2 3 3 3 3 5 3 4 5 3 4 3 4 5 4 3 3 5 5 5 5 5 5 5 5	温制御		- - - - - - - - -	-	-	- - - - - - - - - -	-
2.2 湿原 2.3 空記 3 光・視環場 3.1 昼分 3.2 グレ 1 3.3 照原 4.1 発生 4.1 発生 4.2 換き 4.3 運序 4.3 運序 4.1 機能性 1.1 機能性	1 室温 2 外皮性能 3 ゾーン別制御性 度制御 調方式 ・	 	- - - - - - - - -	-	-	- - - - - - -	-
2.2 湿原 2.3 空間 3.1 昼分 1	2 外皮性能 3 ゾーン別制御性 度制御 調方式 ・		-	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		- - - - - - -	-
2.2 湿原 2.3 空語 3.1 昼分 3.1 昼分 3.2 グレ 3.3 照原 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換身 4.3 運用 4.3 運用 2.3 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換身 1.1 機能性 1.1 機能性	3 ゾーン別制御性 度制御 調方式 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	- - - - - - - - -	-	- - - - - - - - - -	- - - - - - - - -	- - - - - -	-
2.2 湿原 2.3 空記 3.1 屋う 3.1 屋う 3.2 グレ 3.3 照原 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換身 4.3 運月 4.3 運月 1.1 機能性 1.1 機能性	度制御 調方式 境 光利用 1 屋光率 2 方位別開口 3 屋光利用設備 レア対策 1 屋光制御 度	- - - - - - - - -	-	- - - - - - - - - -		- - - - - -	-
2.3 空語 3.1 屋 1	調方式 ・	- - - - - - - -	-	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - - -	-
3.1 屋 3.1 屋 3.1 屋 3.1 屋 3.3 照月 3.3 照月 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換集 4.1 発生 4.3 運月 4.3 運月 1.1 機能性 1.1 機能性 1.1 機能	・	- - - - - -	-	- - - - - -	- - - - -	- - - - -	-
3.1 <u>を</u> 3.2 グレ 3.3 照照 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換集 4.3 運用 4.3 運用 1.1 機能性	光利用	- - - -	-	- - - - -	- - -	- - - -	-
3.2 グレ 3.3 照明 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換集 4.3 運用 1.1 機能性 1.1 機能性	1 昼光率 2 方位別開口 3 昼光利用設備 レア対策 1 昼光制御 1度 1明制御	- - - - -	-	- - - -	- -	- - -	
3.2 グレ 3.3 照月 3.4 照甲 4 空気質環 4.1 発生 4.2 換き 3.3 編月 4.1 発生 1.1 機能性 1.1 機能性	2 方位別開口 3 昼光利用設備 レア対策 1 昼光制御 度 明制御	- - - - -	-	- - - -	-	-	
3.2 グレ 1 3.3 照月 3.4 照日 4.1 発生 4.1 発生 4.2 換き 1 2 3 4.3 運月 1 2 4.3 運月 1 2 2 3 1 機能性 1.1 機能	3 昼光利用設備 レア対策 1 昼光制御 度 明制御	- - - - -	-	- - -	-	-	
3.2 グレ 3.3 照月 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換気 4.3 運月 1 2 3 3 4.3 運月 1 2 3 3 4.3 運月 1 2 3 3 4.3 運月 1 2 3 3 4 3 運月 1 2 2 3 3 3 2 4 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	レア対策 1 昼光制御 度 明制御	- - - -	-	- - -	-	-	
3.3 照月 3.4 照明 4.1 発生 4.2 換気 4.3 運月 1 2 Q2 サービス 1 機能性 1.1 機能	1 屋光制御 度 明制御	- - - -		-	-		
3.3 照月 3.4 照明 4.1 発生 4.1 発生 4.2 換気 1 2 3 4.3 運月 1 2 4.3 運月 1 1 機能性 1.1 機能性	度 明制御	- - -	-	-		-	
3.4 照明 4.1 発生 4.1 発生 4.2 換気 4.3 運用 4.3 運用 1.1 機能性 1.1 機能性 2.3	明制御	-	-		-	-	
4.1 発生 4.1 発生 4.2 換気 4.3 運厂 2.3 4.3 運厂 1.1 機能性 1.1 機能性				-	•	-	
4.1 発生 4.2 換気 4.3 運用 4.3 運用 1 機能性 1.1 機能 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3					•	-	
4.2 換約 4.3 運用 4.3 運用 2 Q2 サービス Q2 サービス 機能性 1.1 機能			-	-	-	-	-
4.2 換約 1.3 運用 4.3 運用 1.1 機能性 1.1 機能性 2.3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		4_	-	-	-	-	
4.3 運 4.3 運 1 1 2 Q2 サービス 機能性 1.1 機能 2 3		-		-		-	
4.3 運 4.3 運 1 2 Q2 サービス 1 機能性 1.1 機能	1 換気量	1_		i -	-	· -	
4.3 運 1 2 Q2 サービス 1 機能性 1.1 機能	2 自然換気性能						
4.3 運	3 取り入れ外気への配慮						
Q2 サービス 1 機能性 1.1 機能 2							
Q2 サービス 1 機能性 1.1 機能 2 3	1 CO ₂ の監視	1_		i .			
Q2 サービス 1 機能性 1.1 機能 2 3	2 喫煙の制御	1_	_	_		_	
1 機能性 1.1 機能 2 2 3			_	0.43	-	-	3.8
1.1 機能 2			-	-		-	-
2 3	能性・使いやすさ		-	-	-	-	
3	1 広さ・収納性	1-	-	-		-	
	2 高度情報通信設備対応	1-	-	-	-	-	
1.2 心里	3 バリアフリー計画]-	-	-	-	-	
	理性・快適性		-	-	-	-	
	1 広さ感・景観]-	-	-		-	
	2 リフレッシュスペース	<u> </u> -	-	-	-	-	
	3 内装計画	-		-		-	
	持管理	4	-	-	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計	 	-	-		-	
	2 維持管理用機能の確保	_	-	-		-	
2 耐用性・信			3.3	0.50	-	-	3.3
	震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ) 2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.80		-	
		1	3.0	0.20	-	-	
	品・部材の耐用年数 1 ■躯体材料の耐用年数	\mathbf{I}_{-}	3.9	0.30		-	
	1 躯体材料の耐用年数	ー 金属断熱パネルを採用	3.0 5.0	0.20 0.20	-	-	
		床:浸透性表面硬化剤(無機質系塗床剤)、壁:石膏板	5.0	0.20			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	所に及びにない。	4.0	0.10	-		
	 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 	主要な用途上位3種の2種以上にC以上を採用	4.0	0.10			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.20			
	 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 		3.6	0.20			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔			0.20			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔 頼性	_		0.20	-		
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔 頼性 1 空調・換気設備	_	3.0	0.20			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔 頼性 1 空調・換気設備 2 給排水・衛生設備		3.0 4.0	0.20			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔 頼性 1 空調・換気設備	_	3.0	0.20 0.20 0.20	-	-	

CBL-CAS建築-0055-24 スコア

0	44 rt- M	- 東蛇科		4.0	0.50			4.0
3		世・更新性		4.3	0.50	•	-	4.3
	3.1	空間のゆとり	rk 京 0 0 1 L	5.0	0.30			
		1 階高のゆとり	階高:3.9以上	5.0	0.60		-	
		2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40		-	
		荷重のゆとり	地震荷重・架構用も含め50%以上の割増	5.0	0.30	3.0	-	
	3.3	設備の更新性		3.4	0.40	-	-	
		1 空調配管の更新性	1–	3.0	0.20		-	
		2 給排水管の更新性	1_	3.0	0.20		_	
		3 電気配線の更新性	構造材・仕上げ材共に痛めずに更新・修繕が可能	5.0	0.10		_	
			構造材・仕上げ材共に痛めずに更新・修繕が可能	5.0	0.10		_	
		4 通信配線の更新性				-	-	
		5 設備機器の更新性	[3.0	0.20	-	-	
		6 バックアップスペースの確保	_	3.0	0.20	•	-	
Q3	室外I	環境(敷地内)		_	0.57	-	-	3.7
1	生物理	環境の保全と創出	既存植栽を一部残置すると共に、さらなる外構の緑化	4.0	0.30		-	4.0
2	まちな	み・景観への配慮	周辺の街並みと調和した景観を形成	4.0	0.40	•	-	4.0
		生・アメニティへの配慮		3.0	0.30			3.0
ľ		地域性への配慮、快適性の向上	敷地の一部を一般の歩行者も通行可能な道として提供	4.0	0.50			
		敷地内温熱環境の向上	一 一	2.0	0.50		_	
				2.0	0.50		_	4.0
		物の環境負荷低減性			-		-	4.3
LR1	エネノ	レギー			0.40	-	-	4.6
1		上皮の熱負荷抑制	BPI=0.41	5.0	0.20		-	5.0
2	<u>, </u>	ニネルギー利用	_	3.0	0.10			3.0
2			BEI=-1.23	5.0	0.50			5.0
4			··	4.0	0.30			4.0
4	<u>効率的</u>		 			-	-	4.0
		集合住宅以外の評価	高上 水井目のま - 粉外のようは空かざる	4.0	1.00		-	
		4.1 モニタリング	電力消費量の表示機能のある装置を導入	4.0	0.50	•	-	
		4.2 運用管理体制	建物の年間エネルギー消費量の目標値を計画し、建築主に提示し	4.0	0.50		-	
		集合住宅の評価		•	-		-	
		4.1 モニタリング	1–		-	_	-	
		4.2 運用管理体制	_		_		_	
I D2	答话.	マテリアル		_	0.30	_		4.2
LINZ								
	水資源			3.8	0.20	•	-	3.8
		節水	自動水栓・節水型便器等を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
		1 雨水利用システム導入の有無	雨水を雑用水として利用	4.0	0.70		-	
		2 雑排水等利用システム導入の有無	_	3.0	0.30		-	
2	非重4	性資源の使用量削減		4.5	0.60		-	4.5
1		材料使用量の削減	機械式継手、ハイベースNEO等を採用	5.0	0.11			
		既存建築躯体等の継続使用	_	3.0	0.22		_	
			基礎に高炉セメントを採用				-	
		躯体材料におけるリサイクル材の使用		5.0	0.22		-	
		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入法、エコマーク商品を採用	5.0	0.22		-	
		持続可能な森林から産出された木材	_	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物	物質含有材料の使用回避		3.9	0.20		-	3.9
_		有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を4種類採用	5.0	0.30			
		フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		_	
	0.2	Lucia de la	I_{-}	0.0	0.70			
			ハフロン大坂田		-	*	-	
		2 発泡剤(断熱材等)	ノンフロンを採用	4.0	0.50		-	
		3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3		朴環境		_	0.30	-	-	3.9
1	地球温	温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率3%	5.0	0.33	•	-	5.0
2	地域班	環境への配慮		3.6	0.33	-	-	3.6
		大気汚染防止	燃焼機器の設置なし	5.0	0.25		-	
		温熱環境悪化の改善	_	3.0	0.50		_	
		地域インフラへの負荷抑制	1	3.7	0.25			
	2.3		$oldsymbol{I}_{-}$					
		1 雨水排水負荷低減	1	3.0	0.25	-	-	
		2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		3 交通負荷抑制	適切な量の駐輪場・駐車場を確保	5.0	0.25		-	
		4 廃棄物処理負荷抑制	ストックスペースの確保等	4.0	0.25	•	-	
3	周辺理	境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	•	-	
		1 騒音	1-	3.0	1.00		_	
		2 振動	1–	-	-	4	_	
		3 悪臭	_					
				- 2 ^	0.40	•	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	1	3.0	0.40	•	-	
		1 風害の抑制	$oldsymbol{I}^-$	3.0	0.70	•	-	
		2 砂塵の抑制	 -	•	-	•		
		3 日照阻害の抑制]-	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20		-	
		1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70		-	
		2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	_	3.0	0.30		_	
					00	E		

CBL-CAS建築-0055-24															スコア
CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版												(412	称)ロジクロ	マタ古屋	みかと計画
評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画		-	_		_		-	-		-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計 1.3.2 維持管理用機能の確保			-	<u>-</u>	_	<u> </u>	_	<u> </u>	Η-	-	_	-	+-	_	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		_	_	_	0	_								
2.4.2 給排水•衛生設備	3.0	3.0	0	-	-	-	0	-	0						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	_	0	0	0	0	_							
2.4.5 通信•情報設備	2.0			<u> </u>		<u> </u>	0	<u> </u>							
Q3 室外環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出	11.0		2.0	2.0	2.0	Γ-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	Т_	Τ_		1
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0				
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0		-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0		-	1.0	_	1.0	-	_	-	_	_				
LR1 エネルギー			3	1		<u> </u>							_		
2 自然エネルギー利用					_		_	_		_				_	
LR2 資源・マテリアル 1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			_		_	l _	_	I -	I -	I -		1			1
2.1 材料使用量の削減	5.0		-	1.0	4.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		0	_	0	_									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0				<u> </u>										
LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	T -	l –	3.0	1.0	T -	T -	3.0	I _				1
2.3.3 交通負荷抑制	5.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0		3.0					
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	-		-	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	_		-	_											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能			窓システ				3射熱取			- Jet			_		
			U値(W/r		だ た ステムU値	システム		屋根 ト皮UA値		外壁 n AC		n A⊦	ŧ - 1 -		
3.1.1 昼光率			昼光率		17 - 10			1,001		1,710		,,,,	·		
4.2.2 自然換気性能			自然換気	。 有効開ロ	口面積率	3.3%									
Q2 サービス性能															
					-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-		
1.1.1 広さ・収納性			執務スペ			\/ \/ /m²									
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応			コンセン		-	VA/m ²									
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観				卜容量	- - -ス	VA/m² m -	レスト	スペース	-						
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース			コンセン	ト容量		m	レスト	スペース	<u> </u>	-					
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			スポープ フレッシ 想定耐用 想定必要	ト容量 レュスペー 月年数 長間隔	0	m - 年 年	・ レスト ・	スペース	-	-					
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間	隔		コンセン 天井高 リフレッシ 想定耐用 想定必要 想定必要	ト容量 シュスペー 月年数 長間隔	0	m - 年 年	レスト	-スペース -	. -	-					
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	闸		コンセン 天井高 リフレッシ 想定耐用 想定必要 想定必要	ト容量 シュスペー 月年数 長間隔	0 0 0	m - 年 年 年	レスト	<u>スペース</u>	<u>-</u>						
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間]隔		コンセン 天井高 リフレッシ 想定耐用 想定必要 想定必要	ト容量 シュスペー 月年数 長間隔 長間隔	0 0 0	m - 年 年	レスト	スペース	. -	-					
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり	隔		コンセン 大井高 リフレッシ 想定 定 が 必要 要 を 必要 と を を を を を を を を を を を を を を を を を を	ト容量 シュスペー 月年数 長間隔 長間隔	0 0 0 0 0	m - 年 年 年	レスト	<u> </u>	<u>-</u>	-					
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.3 室外環境(敷地内)	隔		コンセン 天井高ッジ 想定定定定所 想 想 定定定定	ト容量 シュスペー 月年数 度間隔 度間隔	0 0 0 0 0 0.0%	m - 年 年 年 年 N/m2				-					
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.6 主要改備機とり 3.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 2.3 室外環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出	隔		コンセン 天井高 リフレッシ 想定 放 想定 企必 必 要 要 要 要 よ 比 床 荷重 外 構 緑 ((ト容量 シュスペー 月年間隔 度間隔 度間隔	0 0 0 0 0 0 0.0% —	m - 年 年 年 年 N/m2	建物緑化	七指数	0%	-	128		繪掛而穩物	Λα	
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.2 室外環境(敷地内)	辆		コンセン 天井高ッジ 想定定定定所 想 想 定定定定	ト容量 シュスペー 月年数 度間隔 度間隔	0 0 0 0 0 0 0.0% —	m - 年 年 年 年 N/m2		七指数	0%	- - 対策面積率	12%		舗装面積率	O%	<u>-</u>
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.6 主要のは機とり 3.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 2 室外環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上	門隔		コンセン 天井高 リフレッシ 想定 放 想定 企必 必 要 要 要 要 よ 比 床 荷重 外 構 緑 ((ト容量 - ユスペー 月年数 展間隔 長間隔 上指数 - 47%	0 0 0 0 0 0 0.0% —	m - 年 年 年 年 N/m2	建物緑似	と指数 0%	0% 地表面	対策面積率 相当		·	舗装面積率	0%	
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要的接仕上げ材の更新必要間隔 2.1.1 階高の形状・自由さ 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり G3 室外環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR1 エネルギー	門隔		コンセン 天井高 リフレッシ 想想 想 想 想 恵 全定 定定 高 長 荷 重 外 構 緑 化 空 地 率	ト容量 - ユスペー 月年数 展間隔 長間隔 三 上指数 47%	0 0 0 0 0 0 0 0.0% —	m 年 年 年 年 M N/m2	建物緑似	と指数 0%	0% 地表面 対象外 採光を満	対策面積率 相当 たす教室数	0.0%	採光を満	あたす住戸数	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 3.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり (33 室外環境(敷地内)) 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR1 エネルギー 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用	桶		コンセン 天井高 リフレッシ 想想を定定定定定定定定定 を変更を必要を を 大構率 BPI/BPII 自然エネル	ト容量 シュスペー 月年間隔 長間間隔 上半 上指数 47%	0 0 0 0 0 0 0.0% - 24%	m - 年 年 年 m N/m2 水平投	建物緑化 杉面積率 生能等級 MJ/年m	と指数 0%	0% 地表面 対象外 採光を満	対策面積率 相当 たす教室数 たす教室数	0.0%	採光を満 通風を満	またす住戸数 またす住戸数	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要段債機器の更新必要間隔 2.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 4.3 室外環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上 1.2 東地内東の熱負荷抑制 2.1 自然エネルギー利用 3.2 設備システムの高効率化	阿爾		コンセン 天井高 リフレッシ 想定を耐用 想定企必必 想定企必 を 下 一 の 構縁化 空 地 集 の の の の 機 の の の も の も の も の も の も の も の	ト容量 シュスペー 月年間隔 長間間隔 上半 上指数 47%	0 0 0 0 0 0 0 0.0% —	m - 年 年 年 m N/m2 水平投	建物緑化 杉面積率 生能等級 MJ/年m	と指数 0%	0% 地表面 対象外 採光を満	対策面積率 相当 たす教室数 たす教室数	0.0%	採光を満 通風を満	高たす住戸数 高たす住戸数	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 3.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり (33 室外環境(敷地内)) 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR1 エネルギー 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用	門隔		コンセン 天井高 リフレッシ 想想を定定定定定定定定定 を変更を必要を を 大構率 BPI/BPII 自然エネル	ト容量 シュスペー 月年間隔 度度間隔 上 上 指数 47% m レキー直接	0 0 0 0 0 0 0.0% - 24%	m - 年 年 年 年 M N/m2 水平投 断熟等 0	建物緑化 杉面積率 生能等級 MJ/年m	と指数 0%	0% 地表面 対象外 採光を満	対策面積率 相当 たす教室数 たす教室数	0.0%	採光を満 通風を満	またす住戸数 またす住戸数	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁件上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要段備機器の更新必要間隔 3.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 4 数地内) 1 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR1 エネルギー 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 LR2 資源・マテリアル		FI.	フンセン 天井高 リフレッシ 想想を定定定定定定定定定定定 を必必 要 下 高 を 大 構 車 か り り り り り り り り り り り り り り り り り り	ト容量 レユスペー 月年間隔 長間隔 長間隔 本 上指数 47% m レギー直接	0 0 0 0 0 0 0 - 24% 0.41 利用量 非住宅	m - 年 年 年 年 M N/m2 水平投 断熟等 0	建物緑(I) 影面積率 生能等級 MJ/年m 住宅	と指数 0% f	0% 地表面 対象外 採光を満 通風を満 太陽光	対策面積率 相当 たす教室数 たす教室数 .0kW	0.0%	が 孫光を清 通風を清 .0kW	またす住戸数 またす住戸数 V 蓄電池	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の神修必要間隔 2.2.3 主要決し情報の更新必要間隔 2.3.1 階高の砂とり 3.1.1 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.1 空間の形状・自由さ 3.2 村野ないのでは、1000円のは、100	レ材の使 用	月	コンセン高 リカッション リカッシ リカッシ リカッシ リカッシ リカッシ リカッシ リカッ リカッシ リカッシ	ト容量 シュスペー 用年間隔隔 原間間隔 本 本 お 本 本 の 本 の は ・ 一 直接 の の に の に の に の に の に の に の に の に の に	0 0 0 0 0 0 0 - 24% 0.41 利用量 非住宅 0.0%	m - 年 年 年 年 M N/m2 水平投i 断熱等	建物緑(I) 影面積率 生能等級 MJ/年m 住宅	と指数 0% f	0% 地表面 対象外 採光を満 通風を満 太陽光	対策面積率 相当 たす教室数 たす教室数 .0kW	0.0% 0.0% 太陽熱等	が 孫光を清 通風を清 .0kW	またす住戸数 またす住戸数 V 蓄電池	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ・収納性 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の耐用年数 2.2.3 主要央設備機とり 3.1.1 階宮のの形状・自由さ 3.2 荷重ののとり 2.3 室外環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内とり 2 生物資温熱環境の向上 1 上R1 エネルギー 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 1.2.1 雨水利用システムの有無 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル 2.5 持続可能な森林から産出されたス 3.2.1 消火剤	レ材の使 用	Ħ	コンセン高 アナリ想想想想整床 アウンドル アウン アウン アウン アウン アウン アウン アウン アウン	ト容量 ノユス数 月年間隔隔 原度間隔隔 本 エ指数 47% ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0 0 0 0 0 0 0 0.0% - 24% 0.41 利用量 非住宅 じこル麻 - て(ODP)	m - 年 年 年 年 m N/m2 水平投: が熟等 0	建物緑(I) 影面積率 生能等級 MJ/年m 住宅 エコマー 地球沿	と指数 0% 1 ク商品 温暖化係	0% 地表面 対象外 採光を満 本陽光 ボード 数(GWP)	- 対策面積率 相当 たす教室数 たす教室数 .0kW	0.0% 0.0% 太陽熱等 治体指定の	が 孫光を清 通風を清 .0kW	またす住戸数 またす住戸数 V 蓄電池	0.0%	-
1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要決し機とり 3.1.1 階高の砂とり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.2 空間の形状・自由さ 3.2 南重のゆとり 3.1 空間の形状・自由さ 3.2 神重のゆとり 3.1 空間の形状・自由さ 3.2 神重のゆとり は 空が環境(敷地内) 1 生物資源の保全と創出 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR1 エネルギー 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 LR2 資源・マテリアル 1.2.1 雨水利用システム導入の有無 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル 2.5 持続可能な森林から産出された。	レ材の使 用	Ħ	コンセン高 アナリ想想想想整床 アウンドル アウン アウン アウン アウン アウン アウン アウン アウン	ト容量 フュス数 用年間隔隔 関間間隔 本 47% 47% M 中・一直接 は破壊壊係 の 破壊 の は で の は で の の の の の の の の の の の の の の	0 0 0 0 0 0 0 0 24% 0.41 利用量 非住宅 じニル床 - は(ODP)	m - 年 年 年 年 M N/m2 水平投i 断熱等	建物緑(I) 影面積率 生能等級 MJ/年m 住宅 エコマー 地球湯	と指数 0% 「 ク商品 温暖化係	0% 地表面 対象外 採光を満 通風を満 太陽光	- 対策面積率 相当 - - - - - - - - - - - - - - - - - -	0.0% 0.0% 太陽熱等 治体指定の	が 孫光を清 通風を清 .0kW	またす住戸数 またす住戸数 V 蓄電池	0.0%	-

 見付面積比
 103% 隣棟間隔指標Rw 3.60

 地表面対策面積率
 15.4%
 屋根面対策面積率

見付面積Sb 緑地

0.0% 外壁面対策面積率

0 m

㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m 基準高さHb 0 m m 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面

2.2 温熱環境悪化の改善

3.2.3 冷媒 LR3 敷地外環境